

音楽文化創造学科教授 金子 敦子

1. 研究活動

〈演奏会〉			
「国産絹箏弦を聴く会」 第1部 演奏会 第2部 絹箏弦の体験会 (コンサート企画)	2014. 1. 18	紀尾井小ホール (東京)	平成21年より約5年に渡り、国産の蚕から作った絹の箏弦について多面的に研究してきたが、その結果、蚕(繭)の種類によりそれぞれ特色のある弦が作られることが明らかになった。今回はその研究結果を踏まえて、国産絹弦による演奏会と体験会を実施した。第1部は、地歌・生田流箏曲の米川敏子・米川文子、尺八の志村禪保による演奏会。第2部は、13名の若手演奏家(大学生)を対象に絹箏弦に触れる体験会を開催し、絹箏弦と人工弦の違いについて、さらに日本の伝統文化の継承に関してアンケート調査を実施した。アンケート調査結果については、コンサートの報告書に記載。なお、本コンサートは、大日本蚕糸会、公益財団法人日本伝統文化振興財団、浜松市楽器博物館の協力のもとに行われた。

〈著書（報告書）〉			
『国産絹箏弦による演奏会と体験会 報告書』 (財)大日本蚕糸会 蚕糸絹文化叢書 No.18	2014. 3		2014年1月18日に東京赤坂の紀尾井小ホールで開催したコンサートおよび体験会（ワークショップ）の報告書。体験会では、13名の若手演奏家（大学生）にアンケートを依頼し、調査を行った。主な調査内容は、絹弦と人工弦に関して音の大きさ、広がり、音色についての比較、演奏した感触の違い、第1部の演奏会で絹箏弦を聴いた感想、絹弦が普及しない理由、日本の絹文化の伝承などである。 報告書:全18p. (本文13p. 資料5p. DVD1枚)
〈社会活動〉			
平成24年度 子ども大正琴コンクール	2013. 8. 24	名古屋：ウィルあいち ウィルホール 主 催：公益社団法人 大正琴協会	審査員。大正琴は、日本人が作った最初の西洋楽器であると同時に発明者は名古屋の人である。日本の楽器、郷土の楽器である大正琴を、次世代に継承することを目的とし、平成18年から始まったコンクール。対象は全国の子ども大正琴愛好者。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目 音楽教育Ⅲ		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
戦後発行された「中学校の音楽教科書」には、季節感が感じられる多くの歌唱教材が掲載されている。今まであまり深く考えずに歌っていた数々の歌がどのような情景を表現しているのか。「季節感と音楽」に注目しながら、歌唱教材の分析と研究を行った。調査結果は、報告書『歌に込められた季節感—中学校・小学校の歌唱教材を例に』としてまとめ、全受講生に配布した。		
授業科目 音楽教育Ⅳ		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
音楽教育Ⅳは「卒業論文」である。各自がテーマを見つけ、テーマに適した研究方法を模索し、1年かけて論文にまとめる。その成果を公にするために、2月に学内で発表会を実施した。なお、優秀論文は、日本音楽学会中部支部の例会で発表。		

3. 学会等および社会における主な活動

日本音楽学会	2013. 4～2014. 3	日本音楽学会中部支部委員
--------	-----------------	--------------